

コゴメカゼクサ	<i>Eragrostis japonica</i> (Thunb.) Trin.	絶滅危惧 I 類
		イネ科
選定理由	草地環境や湿地環境の減少などにより、生育地の減少が著しい。もともと生育地が極めて少ないうえ、個体数も少ない。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	稈は直立し、高さ50-120cm。葉身は長さ6-20cm、幅2-6mm。花序は長さ10-60cm、小穂を密生する。小穂は微細で卵形、長さ1.3-2.2mm。包穎は同形同大で長さは0.5mm。護穎は長さ0.7mm。	
生態的特徴	イネ科の1年草。花期は8-10月。水田の周辺や溜池の岸部などの湿地に生育する。溜池では、降水量が少ない年などに、水位が下がって岸部の裸地が出現すると、多くの個体数を確認できることがある。	
分布状況	本州から沖縄に分布し、朝鮮、中国大陸に分布する。岐阜県では、県南中部と県北に稀に見られる。	
減少要因	水田の区画整理や溜池の改修などの大規模な土地改変、農業従事者の減少により遷移が進んだ休耕田が増えていること。さらに、自生地が大都市に近いため宅地造成や道路建設などによる里山の破壊。	
保全対策	水田や水路、その周辺の大規模な改修、除草剤の使用を抑えること。	
特記事項		
参考文献	原色日本植物図鑑・草本編Ⅲ 保育社 1964 日本の野生植物草本 I 単子葉類 平凡社 1982 増補日本イネ科植物図譜 平凡社 1993 レッドデータブックあいち植物編 愛知県 2009	

文責: 福岡義洋